

ラブ&エッチ
BOOK



Hのジョーシキ!?

“イタイ!”を“気持ちイイ”に変える方法

Vol.1



【Hのジョーシキ!?】

～ “イタイ!”を“気持ちイイ”に変える方法 Vol.1～

勘違いってありますよね？ いろいろな勘違い。なかでも、そんなことはありませんでしょ？と思うような勘違いもありますよね。たとえば私が聞いた話。

彼女が地方の女子高に進学したころ、もうほとんどの生徒に生理があって、日常的に「今日、生理痛で...」とか、「腰が重くて辛いよね」なんて会話が繰り広げられていたんですって。そういう会話が大声でなされているところがいかにも女子高っぽいですね。あるとき、彼女の友達が、「ねえねえ、生理痛の軽いナプキンってないかな？ あたし量も多いみたいでよくモレちゃうし、大変なのよね。」とグループの女の子たちに話していました。その子は、全員のどのメーカー、どのサイズなど、こと細かくリサーチして、「そうか、やっぱり 社の羽なしがいいかなあ」なんて真剣顔。でも、ナプキンで生理痛の軽い重いって左右されるものじゃないですよね？ そう聞いてみたところ、「だって、シールの大きさや位置でだいぶ変わるじゃん！」と。一同「.....」。シールの大きさや位置？ って、もしかして！ そうです、彼女は、シールのついている方を体にくっつけて使っていたんです。そしてはがすときの...毛とシールをはがすときの、バリッという痛みのことを、生理痛だと思ってたんです！ 裏返しに使ってるんだから、しかもシールのついている面を使っているんだから、モレても当たり前。全員で大笑いしたそうです。

そういえば私が高校生のころ、なかにはもう初体験をませた子や、もう思いっきり彼に(！)送ってもらって登校する子などがいました。学校帰りに迎えに来てもらって一緒に帰るのならまだわかります。でも一緒に登校して、大学生らしい彼と校門のところで離れがたそうに

していたのは、ちょっとうらやましかったですねえ。そうそう、その頃、やっぱり女子高だったので、セックスをもっている子の体験談は、それはそれは魅力的で、ドキドキしたものでした。また、その頃は当の本人もまだまだヒヨコ子、自慢気味になんでもぶっちゃけ話しちゃう、そんな時期でしたね。クラスでも一番男の子にモテて、社会人の彼氏がいたA子は、週明けには必ず週末の彼とのセックスを微に入り細に渡って話してくれるのでした。「もう週明けは必ず性交痛」このセリフ、A子はよく言っていましたね、楽しそうに。まわりで聞いている女の子たちは、「そうなのか、セックスをすると性交痛というんだか素敵な響きのものを感じるんだ...」と漠然と思いつつ、「そもそも性交痛って何さ？」という根本的なことには触れずに過ごしていました。というより、知らないって言うことが恥ずかしくて、みんなお互いにけん制していたのかも知れません。でも、「肩とかさ、腰とか、普段運動してないから、すっごく性交痛」と言っていてみんな気づきました。A子の言っていた「性交痛」は、実はセックスのあとの筋肉痛のことだったのです！

今思えば、セックスのあとの、けだるい倦怠感、筋肉の疲れや節々の痛み... A子はそのことを性交痛と呼んでいたのですね。たしかにそれも性交痛の一種かも知れないけれど、うれしそうに語っちゃう内容でもないような。そう思えるのは、自分がもう高校生じゃなくて、とっくに本当の性交痛を知っているから。

一晩に何度もセックスする彼とおつき合いしていたとき、2、3回目になると、乾いてきちゃうし疲れるしで、ついに彼に「いたたたっ」って叫んじゃって、彼をがっかり

させちゃったことがあったんです。彼のことは大好きだけど、なんだか申し訳ないような気持ちになっちゃって。それ以来、1回目からも緊張して濡れない、だから必然的に最初から痛い。愛撫の間も今日は濡れるといいな、と思うがあまり濡れない、そんな悪循環で、セックスそのものがイヤになっちゃった時期がありました。彼と会う週末がくるのが苦痛で、濡れにくいのは彼への気持ちが足りないから？ それとも彼とのセックスの相性が悪いのかしら？ だったら長くおつき合いはできないのかな、とまで考えていました。

でもあるとき、彼自身が、「もしかして、何か気にしてる？」と聞いてくれました。私の緊張が見えてしまったのでしょね。性交痛があること、濡れなくて自分もつらいし、彼にいやな思いをさせているかと思うとそれもつらい、と話してみると...。「もしかして、毎回すごく濡れるのが普通だとか、思っていない？」って。人間なんだからそう毎回うまくはいかないよ、ってリラックス顔。この一言で、なんだか悩んでた自分が馬鹿らしくなりました。

女は感じれば確実に濡れるっていうのは勘違い。女だからこそ思い込みがちな勘違いを指摘してくれた彼、できた男でしたね。セックス前の準備にまで協力的でした。今は高校生のときのように「そういうものなんだ」と思い込まずに、パートナーと話してみることができるし、潤滑剤だって使います。セックスの前にしっかり準備して、気持ちよくセックスを楽しむようにしています。出かける前にはみんな化粧するし、洋服も着るでしょ？ それと同じ準備だと思って、安心のためのデリケートゾーンのケア、当たり前にするとうごく楽になりますよ！ 